

## 「令和4年度境港市総合戦略推進会議録」会議録

【日 時】令和4年9月2日（金）10:00 ～ 12:00

【場 所】境港市民交流センター「みなとテラス」 大会議室

【出席者】別添のとおり

【欠席者】別添のとおり

【傍聴者】なし

- 【日 程】
1. 開会
  2. 市長挨拶
  3. 委員紹介
  4. 会長の指名
  5. 副会長の指名
  6. 協議
  7. 閉会

- 【資 料】第2期境港市総合戦略  
第2期境港市総合戦略（訂正）対照表  
資料① 境港市総合戦略について  
資料② 人口動向及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況  
資料③ 具体的施策の取組状況  
資料④ 第2期境港市総合戦略の改訂（案）

### 1. 開会

[事務局]

皆様、本日は、ご多忙の中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。只今より、「令和4年度境港市総合戦略推進会議」を開催いたします。

私は、事務局をしています地域振興課長の小川と申します。

よろしくお願いたします。

本推進会議は平成27年度に発足しまして、令和2年2月に令和6年度までを対象期間とした「第2期境港市総合戦略」を策定しました。

この「境港市総合戦略」を毎年度、委員の皆さまから改善に向けた提言をいただき、必要に応じ「総合戦略」の見直しを行うというのが本推進会議の内容となっています。

そのため、今回の推進会議では、「第2期境港市総合戦略」の取組実績についての検証及び改訂案について、ご協議いただきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

続いて、配布資料の確認をいたします。

事前に送付させていただいておりますのが、「式次第及び委員名簿」、この後、協議事項で用います、「第2期境港市総合戦略」及び「第2期境港市総合戦略（修正）対照表」、「資料①境港市総合戦略について」、「資料②KPIの進捗状況及び人口動向」、「資料③具体的施策の取組状況」、「資料④第2期境港市総合戦略の改訂（案）」です。

また、本日の「出席者名簿」、「配席表」「境港市総合戦略推進会議設置要綱」、左上に MECE

(ミーシー)と書かれてある「用語解説」を机上に配布いたしています。  
全てお揃いでしょうか。不足の資料があれば、お知らせください。  
それでは次第に従い、境港市長の伊達より ごあいさつ申し上げます。

## 2. 市長挨拶

[市長]

「令和4年度 境港市総合戦略推進会議」の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。  
本日は、大変ご多忙のところ、ご出席いただき、誠にありがとうございます。  
皆様方には、日頃から市政各般にわたりご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。  
また、この度は、総合戦略推進会議委員への就任を快くお引き受けいただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、令和2年2月に策定した「第2期境港市総合戦略」は、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間としており、本年度は計画期間の中間年度となります。

本日は、第2期の計画策定後に生じた社会情勢の変化や、各施策の取組状況などを踏まえた検証をお願いしたいと思います。

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大や不安定な国際社会情勢に伴う物価高騰などが、市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼしています。

こうした課題にも、しっかりと対応しながら、人口減少に歯止めをかけ、魅力と活気に満ちた笑顔あふれる境港市を実現したいと考えていますので、委員の皆様には、日ごろの活動やご経験などから、忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、よろしく願いいたします。

## 3. 委員紹介

[事務局]

ありがとうございました。続きまして、次第3「委員の紹介」です。  
それでは、委員の皆様を紹介させていただきたいと思います。

(委員紹介 出欠は別紙のとおり)

推進会議設置要綱第6条の規定により、委員の過半数12名以上が出席しており、この会議は成立しています。

なお、県の地方創生コンシェルジュとして、境港市を担当していただいています鳥取県西部総合事務所 県民福祉局 西部観光商工課の木村課長にオブザーバーとして、出席いただく予定でしたが、欠席の連絡をいただいています。

## 4. 会長の指名

[事務局]

続きまして、次第4「会長の指名」です。  
推進会議設置要綱第5条の規定により、市長が会長を指名させていただきます。  
それでは、伊達市長よろしく願いいたします。

[市長]

本推進会議の会長は、第1期総合戦略推進会議で副会長を務めていただきました奥森清様にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

[事務局]

ありがとうございました。

それでは、奥森会長、会長席の方に移動いただき、ご挨拶をお願いいたします。

[会長]

奥森でございます。

戦略会議では、非常にいろんなことを決めなければならないと思っています。また伊達市長の公約に基づいた戦略を練っていきたいということです。

皆様に対して、前回とは違ってテーマを求めながら、ご意見をいただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

## 5. 副会長の指名

[事務局]

ありがとうございました。

続きまして、次第5「副会長の指名」を行います。

推進会議設置要綱第5条の規定では、「副会長は、会長の指名によりこれを定める」とありますので、奥森会長にご指名いただきたいと思っています。奥森会長、よろしくお願いいたします。

[会長]

副会長には、澤田圭太郎委員を指名させていただきたいと思っています。

[事務局]

ありがとうございました。

それでは、澤田副会長、副会長席の方に移動いただき、ご挨拶をお願いいたします。

[副会長]

日本海新聞の澤田でございます。

皆様と一緒にこの地域の振興策について考えていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

[事務局]

ありがとうございました。

ここで市長は、所用により退席いたします。

それでは、推進会議設置要綱第6条の規定により、これ以降の推進会議の進行を奥森会

長にお願いしたいと思います。

〔会長〕

よろしく申し上げます。

では、さっそく議事を進めさせていただきます。

次第6「協議事項」に入ります。まずは、「第2期境港市総合戦略の取組実績について」事務局の説明をお願いします。

## 6. 協議事項

(1) 第2期境港市総合戦略の取組実績について

〔事務局〕

それでは、総合戦略の取組実績について、説明をさせていただきます。お配りしました資料①をご覧ください。

こちらには、境港市の総合戦略につきまして、計画の位置付け、策定の目的、戦略内容の概略につきまして、整理をさせていただきます。

まず、計画の位置付けですが、境港市がどのようなまちづくりをしていくのかを定めた計画としては、境港市まちづくり総合プラン（第10次境港市総合計画）と境港市都市計画マスタープランの二つの計画があります。まちづくり総合プランは、市政全体を網羅いたしまして、市のまちづくりの総合的な指針を定めた計画であり、市が策定する様々な計画を網羅した最上位に位置づけられる計画です。

また、都市計画マスタープランは、土地の利用、道路、公園、福祉施設、市街地の整備といった、いわゆる土地の利用についてまとめた計画です。

これに対して、第2期境港市総合戦略は、人口の減少に歯止めをかけ、魅力と活気に溢れ、心豊かに安心して暮らせる境港を構築していくことを目的に、まちの活性化（地方創生）を図る上で、こういった点を重点的に取り組むかという施策をとりまとめたものです。

国では、地方創生に当たり、「しごと」と「ひと」の好循環を確立することで、「まち」の活力を取り戻すという考え方を示しており、本市の総合戦略にもその考え方を取り入れてまとめています。

続きまして、戦略という言葉について説明します。

戦略とは、組織の達成したい目標を共有して資源を活用していく上の指針となっています。どうしてもお金、時間というのは有限な資源ですので、目標を達成する上で優先順位をつけて判断する指針というのが戦略になります。

そこで、資料の三角形の図と第2期総合戦略の概略を当てはめながら説明いたします。まず三角形の一番頂点にあります目標は、将来都市像を実現することで人口の減少を食い止めて、魅力とか、活気溢れるまちの実現を目指すようになります。そして上から2番目の戦略は、2つの道筋である、「3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり」、「『子育てするなら境港』を標榜した子育て環境づくり」が該当いたします。

まず、「3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり」とは、地方創生で説明させていただきました「しごと」に係る部分です。本市では水産資源、観光資源、さらに境港、境漁港、米子鬼太郎空港という重要な社会基盤を有しています。これを活性化するこ

とで、雇用の拡大とか、移住定住の促進を図っていくというものになります。

そして、「『子育てするなら境港』を標榜した子育て環境づくり」は、地方創生でいう「ひと」の部分に関わります。子育ての負担軽減、子育て環境の充実、出会いの場や就労環境の充実を通しまして、女性活躍の推進や趣味や家族と過ごす時間、社会活動といった様々な時間と仕事の時間のバランスをとることで、住みやすいまちをつくって少子化に歯止めをかけるということになります。

この二つの道筋を実践するにあたって、市民参画による「協働と改革」と中海・宍道湖・大山圏域が一体的な発展を目指す「連携の共栄」といった視点についても掲げています。

目標達成には、行政だけではなく、市民や事業所の皆様と一緒に取組んでいかなければなりません。そして中海・宍道湖・大山圏域には、自然や歴史・文化という様々な観光資源や産業集積がありますので、連携することでさらに相乗効果が期待できます。

総合戦略の中には連携、交流、協働、そういった言葉が多く記載されています。いずれも自分だけで何かするというのではなく、周囲を巻き込んで一緒に何かを実現していくというような意味を持つ言葉です。このように交流を増やしていくことが総合戦略の目的になります。仕事人が人を呼び込み、人が仕事を呼ぶという好循環が活気を創っていき、目的が達成できると考えています。

以上が総合戦略の位置付けと概略となっております。

続きまして、総合戦略の取組みについても説明させていただきますが、これから説明する各種施策の実績は、三角形でいいますと、いわゆる作戦に該当する内容です。新型コロナウイルス感染症など、総合戦略の策定時には想定されませんでした。それによって作戦レベルの各施策の取組実績に影響が出ていますが、それも踏まえながら、その上位に位置付けられている戦略が正しいかというのを、皆様でご検討いただければと思います。

続きまして、冊子の説明に移ります。

こちら、第2期総合戦略策定時点では、まだ確定していなかった数字や誤記がございましたので訂正しています。今回お配りした冊子は、訂正を反映したものになっておりますので、新しい冊子で確認していただければと思います。

続きまして、進捗状況につきましては、資料②で説明させていただきます。

資料③の詳しい取組み情報は、すべて説明いたしますと非常に時間を要しますので、本日は資料②主な重要項目の数字について説明していただければと思います。

#### [事務局]

続いて、「資料②人口動向及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況」をご覧ください。

まず、境港市の人口動向についてです。平成27年から令和3年までの推移を掲載しています。

まず、①人口の推移についてです。総人口、0歳から14歳までの年少人口、15歳から64歳までの生産年齢人口は、平成27年から令和3年まで毎年減少を続けています。65歳以上の老年人口については、平成30年から平成31年には若干減少しましたが、平成27年から令和3年にかけては増加しています。

続いて、②自然動態の推移についてです。平成 27 年から平成 31 年までは出生数と死亡者数の差が広がり、自然減の数が徐々に多くなっていましたが、令和 2 年、3 年と横ばいになっていますが、自然減に歯止めはかかっているのが現状です。

最後に、③社会動態の推移についてです。平成 27 年から社会減の数が少なくなり、平成 31 年には社会増に転換しましたが、令和 2 年、3 年と再び社会減の数が多くなっています。

続いて、「重要業績評価指標（KPI）の進捗状況」についてです。ページを 1 枚めくってください。

全ての項目を取り上げますと時間がかかりますので、特徴的な項目のみ取り上げます。

#### ◎基本目標① 3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり

##### ○国内外への市場拡大及び新商品開発支援

- ・境港取扱貨物量と境港貿易額について KPI を設定。

##### ○農業・水産業の担い手育成・確保

- ・新規就農が KPI 達成。

##### ○企業誘致及び起業・創業の拡大

- ・起業・創業支援件数の大幅増で早ければ来年 KPI 達成見込み。

##### ○観光地の魅力向上

- ・コロナの影響で全体的に KPI 達成が困難。

※クルーズ客船年間観光客数の単年目標は 8.0 万人の誤り。

##### ○外国人観光客の誘客促進

- ・コロナの影響で全体的に KPI 達成が困難。

##### ○米子鬼太郎空港・国際定期貨客船の利用促進

- ・コロナの影響で国際線は KPI 達成が困難、国内線は回復見込み。

※2021 年の年間空港利用数（国内線）実績は 19.9 万人の誤り。

##### ○港湾の整備拡充と賑わいづくり

- ・コロナの影響でクルーズ客船観光客数は KPI 達成が困難。

##### ○移住・定住の促進情報発信の充実

- ・定期借地権契約件数は順調に推移。KPI 達成見込み。

#### ◎「子育てするなら境港」を標榜した子育て環境づくり

##### ○出会いの場の創出

- ・コロナの影響で出会いの場の創出が困難。

##### ○安心な妊娠出産環境・子育て支援の充実

- ・合計特殊出生率が大幅に減少。

##### ○ワークライフバランスの啓発・支援

- ・セミナーについて令和 3 年度は各地区で開催。

##### ○女性の就労環境充実のための家庭介護負担の軽減

- ・要介護認定の割合を抑制できている。

#### ◎県境を越えた広域連携により魅力ある圏域づくり

- ・コロナの影響で外国人観光客は KPI 達成が困難。

「資料③ 具体的施策の取組状況」については、令和2, 3年度取組実績をまとめて記載しています。時間の関係でこちらについては説明を省かせていただきますので資料をご確認ください。事務局からは以上です。

[会長]

よろしいでしょうか。

私から一番皆さんにお願いしたいのは、第1に生産年齢人口、さらには出産年齢の人口が減少しますと、子どもが増えないことになります。生産年齢が減ってくると境港市のGDPが落ちてくる。つまり境港市の生産活動がどんどん劣化していくことになる。これをしてできるだけ止めていかなければならないということになると、産業の構造転換や活性化、あるいは、スタートアップ企業を持ってくる。一方は企業誘致をやっていくということで、境港市も企業誘致を一生懸命やっていますが、各地域で競争が激化していますので、簡単に企業がどんどん来るということではないと考えています。

そこで、まず子どもの問題を教育長さんから聞いてみたいと思います。学校でのいじめ問題とか、自殺とか、ヤングケアラーとか、子ども食堂など、総括的に境港市の現状がどうなっているかご説明いただきたいと思います。

[教育長]

ご指名いただきました教育長の山本でございます。

学校でのいじめは、毎月数件、九つある小中学校の中からピックアップされて教育委員会に報告されます。これは一時期のいじめは無いというような、年間数十件しかないような状態から、各校からいじめの認知が非常に精査されるようになりまして、小さなことでも、当事者がこれをいじめだと感じたものは全部ピックアップされています。

それから、自殺につきましては、9月1日が特異日ということで全国的にも自殺が非常に起こりやすい日として、校長会で呼びかけをして、子どもの様子の変化や、2学期スタートしたときの様子について注目するようにと話をしていましたが、深刻ないじめによる自殺を考えるような子どもについては、今のところ把握していません。

ヤングケアラーにつきましても、家庭の困窮の差というのはたくさん出ていて、食事をネグレクトという形で受けているものに対して、今は、学校側を中心にスクールソーシャルワーカーを派遣しながら状況把握をしています。現状そういうところ です。

[会長]

ありがとうございました。今の教育長のご意見を踏まえて、小中学校のPTA会長のお話を聞きたいですが、残念ながら本日欠席されています。

今、子育て中の年代の方で、仲里さんと松本さんに質問ですけど、教育長おっしゃられたようなことについて、ご意見があればお聞きしたいです。

[松本麻由子委員]

とっとり暮らしアドバイザーの松本です。うちは中学校一年生の息子がいて、小学校の

頃から境港市で暮らしていますが、いじめとか自殺に繋がるようなことは聞いたことがありません。とても平和で穏やかな学校生活と感じています。私自身が大阪から移住してきたので、こちらの子育て状況は本当に暮らしやすいと感じています。

〔仲里委員〕

私は39歳になりますが、まだ結婚してなくて知見を持ち合わせてなく、軽い意見になってしまうので、意見を控えさせていただきます。

〔会長〕

ありがとうございました。学校教育の問題は教育委員会の主管ですから、戦略会議とはまた別問題ですけども、子どもも消費を相当するわけで、大人になればより消費するわけです。従って子どもの数が多ければ多いほど、消費が高まります。つまり、子どもの数が増えれば経済効果が非常に高くなるので、子どもを産む年齢の方々が境港市から流出しないようにするためにどうすればよいか考える必要があります。

具体的な策は、助成制度を拡充するとか、他自治体でも制度を作って歯止めをかけている例もあります。ただ財政状況が小さい町村レベルが県内でも多くて、人口減少は特に町村が激しいです。そこで、清水副市長に境港市で子育て世代への手当等、考えているかお聞きします。

〔副市長〕

副市長の清水です。確かに小さい町村あたりは、出産祝い金など、現金を給付しているのは承知していますが、なかなか市単位では、結構大きなお金になるので、現金給付は今のところ考えていません。ただ、境港市に転入された方が空き家を活用された場合の補助金などの手当はしています。以上です。

〔会長〕

では、このことについて他にご意見ある方、どなたかいらっしゃいませんか。

〔浦川委員〕

浦川です。人口増にするために子育てのしやすさが大切。共稼ぎ世代というのが非常に多くて、両親が働きに出ていると子どもをどういうふうに育てていくのか、ということがあります。

先ほど、副市長さんは補助についてなかなか難しいと言われましたけれども、ニュースで明石市の補助が高校生まで非常に充実していることを見まして、人口が増えているということでした。金銭的なことが難しいのであれば、子育てしやすさや保護者の意見を聞いて、何らかの取り組みを行うことが必要ではないかと思います。私も建築の仕事をしていますが、米子の啓成小学校が、小学校と幼稚園を同じ敷地の中に建設されています。これは小学校に移行するのに授業中など集団行動ができないという小1プロブレム問題に対するものです。今後、境港市も教育のしやすさとか、就学のしやすさを考えていく必要があると思いました。



それともう一つ、ここに育った子どもたちが境港市を誇りに思えるような地域にできればという中で、島根大学の学生がみなとテラスを利用して、高校生対象に取り組みをしていくというニュースを見ました。高校生にとって境港市が賑やかで楽しい場所だと思えるような取り組みを行政としてサポートしていただけたらと思います。以上です。

〔会長〕

ありがとうございます。そうすると、出生数を増やしていくためには、育てやすい環境づくりをしていかなければならない。そのためには親御さんの収入が安定しなければならない。特に、ひとり親で生活している子どもたちは自助努力だけでは限界がある。共助も必要だし、公助も必要だということなので、境港市として具体的な政策を作っていただくことによって、境港市の人口減に歯止めをかけていく。

そこで、高木先生にお聞きしたいのは、教員はハードスケジュールと聞いていますが、教員のサポートとして、ケアラーみたいな人を増やしていくというようなことはありますか。特に、部活動などのスポーツ関係で教員が非常に長い残業時間になっているということも全国的にあるようで、教員離れになってきている。そのことについてどう思われますか。

〔高木委員〕

高木でございます。私は高等学校にずっと勤めていて、クラブ活動を中心にやってきました。我々の時代は、学校を中心にして、選手強化にも取り組んできましたけども、今言われましたように、先生の受け持つ時間が非常に多くなってきて限界だろうということです。ですから、特に中学校・高校の部活動をできるだけ早く、一般のクラブの指導者に移管していくことが必要と考えています。境港市はそれに取り組む環境としては非常にやりやすい。私もスポーツ協会の関係なので、お手伝いすることがありましたら、積極的に教育委員会に協力していきたいと思っておりますので、いち早く、部活動を一般のクラブにお願いするような体制にしていきたいと思っております。

〔会長〕

そうしますと、もう1点は学校生活ではわからない部分、これが地域にいと小さな町ですので、大体のことは近所回りでわかるのですが、個人情報の問題だとか様々な法律問題によって、なかなか突っ込めないということがあります。一方で、子どもが親の虐待によって死亡してしまうケースを未然に防ぐためには地域との協働が必要と個人的に思っています。自治連合会会長の山田さんに、境港市の自治会の状況と課題をお願いしたいと思います。

〔山田委員〕

山田でございます。境港市の7地区の中で自治会は96ありますが、境地区だけで41の自治会があります。これは他の地区と違って10世帯もない小さい自治会が何ヶ所もあります。41もある自治会の中で、意見もまとまりませんし、会合を設けてもなかなか集まらない状況の中で、東・中・西という3ブロックに分けて話をしています。残念ながら中地区、

いわゆる水木しげるロード周辺が非常に小さくまとまっていて、一つの町内で9も自治会があって話がまとまりにくい状況です。その中で高齢化が進んでいますし、役員のなり手がいない状況の中で、自治会の再編成をスタートしました。当初は猛反対を受けましたが、1年かけて資料を作ってようやく前向きの話ができるようになりました。しかし、コロナ禍になって話し合う機会が持てなくなってしぼんでしまいました。冷めてしまってなかなか前へ進めない。昔からのいきさつがいろいろあって、自治会同士で話を前に進めるのが難しい現状です。役所で区を作ってくれれば、否応なしに決まっていくような気がします。役所ともう少し話をしたいなと思っています。

[会長]

担当課は自治防災課ということで、総務部長にお聞きします。

自治会の再編について行政で進めていくのか、それについてどうお考えですか。

[総務部長]

総務部の木村でございます。よろしくお願ひします。

山田会長様からお話がありましたように、境地区は会員数の少ない自治会が多く、いろんなことで問題があると伺っています。市でも自治会の合併等に対するの支援助成措置も行っていますが、引き続き、各自治会の考えを市で伺いまして、合併や統合といった形がとれればと思います。地方自治は自治会という基礎もございまして、そういった活動は、地域の防災上も非常に重要なものと考えていますので、市としてもできるだけの支援を行っていきたいと思います。

[会長]

それはスピードアップするってということですか。皆様のご意見を聞きながら調整していくということですか。時間の問題だと思いますが。

[総務部長]

スピードアップは考えていきたいですが、やはり地区ごとの意見、それから考え方の醸成にも時間がかかるので、じっくり腰を据えてやっていくことが必要ではないかと思ひます。

[会長]

自治会は防災のためにも必要ですし、見回り等の問題、子どもの問題、あるいは近所周りでトラブル、そういったことも自治会にある程度権限を持たせることが必要だと思います。

その点も含めて、高専の松本先生、今までの意見について感想をお願いしたいと思ひます。

[松本正巳委員]

米子高専生は、20歳までの学生を入れて、およそ1000人規模、毎年200人ぐらひは卒

業生がいます。専攻科があって、1割程度は22歳までは地元にはいますが、やはり県外に出ます。原因は、工学系は大学院まで学びたいという意思が高いので、3割か4割は進学します。地元に住み続けるという選択もありますが、逆に県外で結婚して小さい子どもを連れてこちらに帰って来ることができる。OBでも帰って来たいと相談を受けたりしますが、具体的なUターンにつなげるのが学校機関では難しい。特に、工学系企業とつなぐ場があったら、もう少し連携が取れると思います。帰って来やすい環境を作りたいです。

〔会長〕

その点は就職の問題です。これは経済問題でもありますが、足立さんは地域、自治会の問題、それから子育ての問題をどう感じておられますか。

〔足立委員〕

境港市は災害がなくとても住みやすいところだと私は思っています。うちは子どもが3人いますが、全員こちらに住んでいます。都会には出ていませんので、それを幸せと思っています。コロナ禍で皆さん本当に帰って来られない、会えないというのがある中で、うちは常に会えます。

自分の子どもに子どもがなかなかできなかったので不妊治療をしました。境港市では治療費の援助があってありがたいと思っています。不妊治療の年齢制限が延長されることによって、共稼ぎだけど片方が休んでも援助をたくさんしてもらえると不妊治療ができますので、境港市に制度を続けていただければと思います。

それともう一つ、私は子ども食堂を手伝っていますが、上道小学校の子どもを月に1回集めて、遊ばせてご飯を食べさせるということをやっています。毎回20人以上がいます。その中で、お昼ご飯を待ちきれない子どもが何人かいます。他の地区はわかりませんが、近所でなくてもお母さんと子どもを助けてやらなければいけないと思っています。

〔会長〕

先ほど言いましたように、地域コミュニティを充実することによって、子ども食堂の問題等の様々な問題を小さな段階で解決できる可能性が高いと思います。大きな問題になるとなかなか解決できない。自治会に権限を与えることも必要ではないでしょうか。自治会長がボランティアなので、やっぱり無償というのは協働のまちづくりといっても酷じゃないかなと思います。それでは、なり手がいなくなります。徐々に自分のところさえよければということになる可能性もあります。その点について副市長にお考えをお聞きしたいです。

〔副市長〕

自治会に活動費を、ということですか。現在も1世帯あたり僅かなお金ですが、出しています。先ほど合併の話もありましたが、特に境地区は、私たちが小学校の頃は全校生徒1200人ぐらいいた時期がありましたが、鳥取西部地震が発生した頃から人口が減って、今では境小学校が1学年2クラスしかないと聞きます。

境地区の自治会について、補助金を出すなどして山田会長にも努力していただきました

が、世帯数が少なくなることで特に防災のことで活動ができなくなっている。防災組織を作るにしても、世帯数が少なすぎるので大きな自治会にさせていただくことを考えていましたが、コロナ禍の影響できなかった。

補助金について、他の地区では、例えば電球交換など、自治会にお金を出してまかせているところもあると聞いていますが、果たしてそういうことを、自治会にいろいろやっていただくためにお金を出して、今の状況でやっていただけるのか、逆にそれが負担になるのではないかとということも、小さい自治会が多い中で考えますと、市が効率よくサービスするという形が、今のところよいのではないかと思います。自治会にあまり過度な負担をかけないように、不自由のないように市がやるのが一番かと今のところ考えています。

山田会長さんに、毎月の自治会長の会でご意見を伺いながら、今後の境港市の自治会活動を考えていかないといけないと考えています。

#### [会長]

わかりました。山田会長と連携を図って自治会の統廃合や自治会への権限移譲を検討してください。足立さんが話された子ども食堂なども身近な問題として市民がとらえていくために連携が必要じゃないかと思えます。

ちなみに、鳥取県は3世代住宅が他の都道府県と比べて多い。後は地元自治体との連携、自治会長に対するそれなりの報酬を考えて、自治会に権限を持たせていくことが必要ではないかと思えます。これも一つの考え方ですので、取り上げるかどうかは、また事務局で考えてください。

続きまして、経済問題に行きます。

まず、国際クルーズ船、あるいは様々な飛行機も含めて、管理組合の小西局長に現況をお聞きしたいしたいと思います。

#### [小西委員]

ご指名ありがとうございます。境港については主に貨物船、コンテナ船を取り扱っています。年々貨物量が増加してきていました。しかし、コロナ禍によって、ここ数年は上海や釜山など、港の影響を受けて激減しています。若干回復傾向にあります。令和元年程度までは回復してない状況です。

6月には中国向けのコンテナ航路が中止になるなどマイナスもありますが、国際フィーダー航路という、神戸につなぐ航路が新たにできまして、これまで釜山1航路だけでしたが、神戸からも輸出できるようになりました。こういった動きを踏まえても確実に成長してきています。顧客も少しずつ広がってきて、これから成長してくると思っています。

クルーズにつきましても、ご承知のように、ここ10年ぐらいは徐々に増えてきていたがコロナの影響で、外国のクルーズ船が水際対策の関係で来られなくなったので、一昨年は0隻、去年は国内のクルーズ船が2隻です。境港では7割以上が外国のクルーズ船ですので、外国のクルーズ船が来て初めて賑わうようになる。先ほどから人口減少の話もありますが、そこだけでは境港は成り立っていかなくて、交流人口を拡大していかないと、境港の定住人口だけを増やしても限界があります。先々の境港の目標としては、年間60回

ぐらい寄港していましたが、将来 100 隻ぐらい来ていただくためにポートセールスに取り組んでいます。

来年は、境港から発着できるクルーズはできるということで、今まではクルーズ船を見るだけでしたが乗れるということで、考え方を換えれば中国地方とか、近畿地方の方に境港に来て一泊していただいて、クルーズ船に乗っていただければ広がりもできる。商工だけでなく観光ということも含めて、広がりを考えていきたいと思っています。これについては中海・宍道湖・大山圏域で連携しながら取り組んでいきたいと思っています。

[会長]

続きまして水産関係の現状について、水産振興協会の島谷さんをお願いします。

[島谷委員]

手元に資料がありませんので記憶をたどってですが、8月までであれば、総水揚げで昨年と比べて大体 25~28%アップです。境港市の不漁は3年続きましたけど、底を打ったところ。逆に8月は完全に失速しました。8月単体で見ると去年の2割減ぐらいです。

現状ではコロナ禍や世界情勢でいくと、単純に今日の水揚げを増やすだけでは相場は決まりません。違った要因で物事が動いていると考えています。幸いに数字を一つ取り上げるとクロマグロ、今年は規制枠を十分に達成しましたが、平均単価が1.5倍以上です。この市場係数は、年末に向けて持てる者が買い占めるという一面もあります。従って地元業者としては世界的な経済全体の動きの中で翻弄されながらも頑張っていく、というのが今の状態じゃないでしょうか。

[会長]

事務局に青魚と言われるイワシ、アジ、サバの数量と金額、クロマグロ、ベニズワイガニの数量と金額の追加で説明してもらおうようにお願いしていました。産業部長、お願いします。

[産業部長]

1月から7月までの水揚げについて、まず青魚の数量と金額です。1月から7月までトータルで6万トンです。それ以外のものを含めた水揚げ量が8万3,000トンですので、約7割が青魚です。あとブリ類ですが約6,000トン、全体8万3,000トンに対して約8%となっています。金額について、アジ、サバ、イワシ、これが約29億円となっています。全体の水揚げ金額が130億円ありますので、約22%を占めています。ブリ類は約15億円です。全体が130億円ですので、11%の金額を占めています。マグロについて、水揚げ数量は約1,075トンです。トータル8万3,000トンですので、1.3%を占めております。金額にしますと21億円となっていて、全体金額は130億円ですので金額では16%占めているという状況です。ベニズワイガニについて、これは約2,800トン。全体が8万3,000トンですので、3.4%を占めています。金額では19億円あります。全体金額が130億円ありますので、14、15%を占めています。

〔会長〕

ありがとうございました。やはりマグロ、松葉ガニ、ベニズワイガニの単価が高い、金額に絶対ウエイトが相当占めるということがわかりました。ただ、マグロもカニも獲れる期間が短い。青魚も小型化していて付加価値がつかないことには金額が上がらない。

次は観光の問題です。水木しげるロード振興会の柏木さんに現状と今後の課題、観光協会との取組について現状をお願いします。

〔柏木委員〕

今年度の水木しげるロードの観光客は、この3年間で最も増えてきて、特にゴールデンウィーク、お盆休みが顕著でした。ただし、売り上げが全く上がっていません。実際にお土産物を持って歩いている方が減っています。原因の一つとして考えられるのは、物価高騰で家計に占める不可分所得が減少してしまってお土産に使われるお金が少なくなったのと、以前は3世代で来られるのが多かったが、コロナ禍によって親子連れが非常に多くなりました。おじいさんとおばあさんが一緒に来られないのでお土産が買われていない、という現象が起こっています。また、コロナ禍で人とのつき合いが薄くなった、お土産を配るという習慣がなくなってしまったのではないかと思います。

一方で、土曜夜市が開催されたことによって、夜の賑わいも増えてきています。御宿野乃の宿泊客が夜に歩く姿も増えて楽しめるお客様もいました。特に最終日にぐっと増えましたので、少し期待を持てる部分もあるのかなと思っています。

今後の課題としまして、私も松ヶ枝町の商店街の副会長がやっています、水木しげるロードもご多分に漏れず、皆さん高齢化しています。ですから、水木しげるロードができたときに50代だった方はもう80代になってきて、後継者がいればいいですが、後継者がいないお店とかはどうするのかという状況です。それから特定の業種にはなりますが、おじいちゃんおばあちゃんが買ってくれるから商売が成り立っていたお店が成り立たなくなっている。500円、1,000円くらいのお土産は比較的にご家庭で買っていただけますが、高額商品を取り扱っているお店は厳しくなっていると思います。空き店舗がコロナ禍で増えてきています。それが今後の問題になると思っています。

〔会長〕

そこで、このように状況が変わってきたということで観光協会としてどうやってこの10億円かけた水木しげるロードのてこ入れを考えているのか、その辺が一般的にあまり見えてないという市民の声があります。観光協会の存在感、使命、責任はかなり重いと思います。観光協会の会長も変わりましたし、観光協会のお考えを古橋さんから説明していただきます。

〔古橋委員〕

ご説明していただいた通り、法人化をして、会長も変わりましたので、観光協会の内部でも変化が起こった中で、コロナ禍でもあり大変なところですが、一つあげれば、今までお客様を呼び込む仕掛けは、梶田前会長の頃から情報発信を含めて力を入れてきました。

新会長になって、情報についてはプロフェッショナルの方ですので、そこを強化して力を入れてきました。まだコロナの影響については不透明ところもありますが、来年に向けて国内観光のお客様、インバウンドのお客様、海外の観光客の受け入れの人数も徐々に広がっています。海外や国内に向けて、先ほどから話に出ています連携というところ、境港のPRと山陰のPRでは違ってくると思うので、そこら辺の団体も含めた情報発信を念頭に置いて活動の幅を広げていきたい。圏域もそうですけど境港市での観光誘致を合わせて図ってきたいというのが根本にある考え方です。

#### 〔会長〕

空き店舗があるということでしたが、これは金融政策と関係があります。スタートアップ企業の大体10社のうち7割は失敗して3割が成功する。その中で、今言われているGAFAは何十年前のベンチャー企業でした。日本ではベンチャー企業が非常に少なく、融資の問題、補償の問題を含めて、起業することは並大抵の努力ではできませんし、失敗すれば家屋敷を取られてしまうので家族の反対もある。最近、山陰合同銀行がファンドを作ったということで、それについて津田支店長にスタートアップ企業を含めた、地元の中で地元の方が起業していけるようなファンドを含めた金融政策を説明していただければと思います。

#### 〔津田委員〕

山陰合同銀行の津田でございます。先ほど会長がお話しされたファンドは、キャピタルと一緒に作っているファンドの話だと思います。過去からこのファンド自体はずっとあるもので、創業期の本社企業に対する融資をしています。皆さんファンドが使えるわけではありませんし、きちっとした事業計画が必要になるので、実際の創業支援は今でも融資が中心なのが現実的なところと思っています。商工会議所とか、保証協会と一緒に融資するということが多いというのが現実だと思います。さっきおっしゃったようにファンドの活用というところで、実際に創業期に資金が必要となって、成長するために使用するところと一緒に応援していくケースが多いと思っています。ファンドについては、後継者問題が問題になってきていますので、橋渡しの事業承継ファンドを作って、後継者が決まるまでファンドが一旦その株を受けて、後継者が決まったらその方、もしくは第三者にというような形で、そのファンドを活用する。

また、非常に新しいファンド形式も日本に入ってきていて、サーチファンドというのが新しく立ち上がって、山陰合同銀行も野村証券が作っているファンドに出資したりしていますが、後継者候補の方にファンドが出資して、その方が経営したい企業を探してきて、そこに経営者として入っていくことで後継者問題を解決する方法です。これはアメリカで20年ぐらい前からあるんですけど、いろんな形態のファンドが、実際できてきているというのが現状と思っています。我々が今、積極的に取り組んでいるところでは、既存の事業者さんがいろいろ業態展開するとか、新事業を展開する中で、事業再構築補助金というのを皆さん聞かれたことがあるかもしれませんが、これは経産省の取り組みですが、事業費の3分の2、最大8000万円までという補助金があります。新しい事業展開を応援するという意味で、計画策定と一緒に作らせてもらっているケースも結構増えています。私

どもも、ここ1年ぐらいで10件ぐらいお手伝いしています。採択になるかどうかということではありますが、そういった資金を使って新たな事業展開をしていただいて、そこでまた雇用が生まれていくということを積極的にやっています。

境港市に対して、企業誘致の話の中で、竹内団地、昭和町、西工業団地、3つの団地がありまして、ある程度の広さの土地に進出したいという話は定期的に我々の耳にも入ってきて、いろいろ探して、お手伝いしていますけども、なかなかうまくいきません。それについて、行政や商工会議所も含めて情報共有が多くできれば、我々も関西、山陽方面に支店を持っていますので、山陰にも興味をお持ちの方に境港を選んでもらうための情報共有ができるとやりやすいと思っています。

[会長]

それに対して、柏木部長どうですか。金融機関との連携について。

[産業部長]

企業誘致に当たっての金融機関との連携ですが、私どもが企業誘致をする際に、なかなか飛び込みでは企業誘致が成立するわけがないので、橋渡し、顔つなぎをしていただく人を求めています。今までの取り組みでは、境港市にゆかりのある方から企業を紹介されて訪問していました。そのような情報があれば、ぜひ私どもも訪問させていただきたいと思いますので、連携をとらせていただきたいと思います。

それとは別の話ですが、後継者問題というのがありましたけども、昨年から商工会議所と市の方で、事業承継のセミナーや相談会をやっています。相談会は企業個別に月1回やっていますので、もしお困りの点がありましたら、ぜひ相談会を活用していただければと思います。

[会長]

続きまして、農業問題です。一般的に白ネギのブランド化について総合戦略に書かれていますけども、一方で、日本全体ではこれから農作物を海外に輸出する、つまり、日本で余ったものを海外に売るとなると、輸送の問題になると思いますが、農業の産業化、あるいは耕作放棄地が非常に多い境港で、海外で売れるものを作っていくという政策も含めて、今、農協としてどう考えているか、現状と将来的な戦略の提案があれば、宮本さん、よろしくをお願いします。

[宮本委員]

宮本と言います。よろしくをお願いします。資料の真ん中にある通り、新規就農者が実際に毎年増えている状態ですが、本当に問題となっているのは、非常に早く進んでいる高齢化です。農業が今の状態だとなかなか儲からないというのが現実で、後継者がおらず県外に出ている子どもが多いというのが実情です。

特産は白ネギで、弓浜半島は頑張っています。海外輸出については、私の担当ではないのははっきりとしたことはわかりませんが、海外から入ってくる農作物が多いです。ご存じのように輸入に頼っている状態です。



後継者がいないのが一番問題で、後継者がいて白ネギだけでも頑張っていたら海外に輸出できるという状態であれば話は進んでいくと思いますが、農業する方が少なくなっているのが問題です。荒廃地が非常に多く、田んぼや畑に大きい木が生えているのが現状です。若い方で大きく白ネギを広げたい方はいますが、荒廃地がたくさんあり、使える土地がないので、何軒も頼んで土地を借りてネギを作っているのが現状です。効率的に作るには大きい荒廃地を綺麗に使えるようにしていただければ、効率よく生産ができるのではないかと思います。

〔会長〕

農業生産法人とか、資金力を持ったところが整備をして大規模に作って行ってコストを下げていく、その中で就農人口を増やしていかなければならない。その辺を留意しなければ、現状のままでは耕作放棄地が増えてしまって、ひいては最終的には市が整理しなければいけなくなってしまいますけど、その点はどうお考えですか。

〔宮本委員〕

境港市には、二つ大きい農業法人があります。億を売り上げているようなところもあるわけです。若い方が集まって、そういった方向に向いている方もいますので、農業法人自体は増えていくような気はしています。

〔会長〕

最後に仲里さん。伯州綿を頑張っておられて、新聞でも見えています。ただ、非常に生産量も少ない中での、製品の付加価値を高めていかなければならない、今後の展開について、仲里さんの個人的な考えも含めて、ご意見をいただきたいと思います。

〔仲里委員〕

完全に個人的な意見にはなりますが、伯州綿のシャツ屋として2年目に入っています。とりあえずは地域の皆さんのおかげで、借金をせずに、貯金を崩さずにいれる状況です。

伯州綿に対して、今一番思っているのは、魅力的な商品がないということです。伯州綿だからということで商品売っていくというよりは、その商品自体の魅力がないと、物は売れないと考えているので、最優先は魅力的な商品を作ることです。そういった意味で僕は伯州綿のオーダーシャツをやって、2年間、生計を立てられています。

自分の手応えとして、今のお客さんは山陰の方が多のですが、昨年、実は全国放送のラジオでの伯州綿についてお話をさせていただく機会がありました。その内容というのは、私の経歴と、伯州綿がなぜいいか、どういった魅力があるかをお伝えさせていただきました。そんな中、伯州綿はそのもの自体も重要ですけど、一番僕が押したいのは、伯州綿の歴史です。この地域の歴史を伝えることのできる作物と思っています。それをラジオで伝えたところ、早朝にラジオ放送が流れたにもかかわらず、20件ぐらい全国から問い合わせがきました。それで東京とか、石川県、四国や大阪でわざわざ、この伯州綿のシャツを作りたいと言ってきてくれる方が10人ぐらいいらっしゃいます。なので、伯州綿そのものの魅力もそうですけど、歴史の背景を語ることで伯州綿の魅力が増すと確信したので、

今後は情報発信もそうですし、魅力的な商品、これを作ることで刺さる人には刺さると確信しています。

あと1点、わざわざ伯州綿のシャツ屋に来る方は、僕のところだけに来てくれる方もいます。例えば、鳥取砂丘や水木しげるロードに興味がない人でも、文化に興味がある人が比較的僕の商品を買ってくれています。もったいないと思うのは、水木しげるロードがファミリー層向けという印象になってしまっていますが、僕は水木しげる記念館が好きですが、水木しげる先生の考え方、生き方については、文化に興味のある人は必ず興味があるはずで、何人かのお客さんに聞いたところ、「水木しげる記念館、よかったよ」と言われます。僕は自分の事業を、ここの土地に来る観光の一つにしたいと思いました。僕の事業を入口として、境港市の歴史と文化のところに観光を広げていきたいと思っています。

〔会長〕

ストーリーを描いていくということですね。そうしますと産業部長、その意見に対しての何か回答があればお願いします。

〔産業部長〕

魅力的な商品がないということですが、役所でそういう商品を開発しようと思っても、良いもの、売れるものはできないと考えます。やはり仲里さんのように、精力的に伯州綿を商品化していこうとか、民間企業で商品を頑張っけて開発していこうというようなところと連携していく必要があると思っています。市役所としては、伯州綿製品を作る方に安定的に伯州綿を供給していくことが必要だと思っています。

また、歴史やストーリー性ということも言われました。私も実際に伯州綿を県外の有名な布団屋に売りに行ったことがあります。その方も伯州綿の歴史やストーリー性が素晴らしいとのことでしたので、PRの仕方も、仲里さんのご意見やご指摘を踏まえて、連携して情報発信に努めていきたいと思っています。

〔会長〕

わかりました。ありがとうございます。後1人、2人からご意見をお受けします。

〔柏木委員〕

ここ3年間、伯州綿と弓浜緋の機織り教室をしています。毎年、市報で広報していますが、今年はちょっと変わった需要がありましたので、その報告をしたいと思います。

教室は、伝統工芸士の中村さおりさんにこだわりをもって一通り教えていただきます。例年は年3回でしたが、今年は1回だけ開催しました。参加者の1人の方から、都会に住んでいる孫に伯州綿の機織りを教えたいから、親子で参加させていいかという問い合わせがありまして、参加していただいて非常に喜んで帰られたということがありました。中村さんから連絡いただいたのは、参加者から弓浜緋を教えてもらうところがわからない、どこに行ったら教えてもらえるのかわからない、以前からやりたかったというご意見を聞いたということでした。伯州綿を使っていく一つのアイテムとして、弓浜緋に力を入れてPRできればと思います。

[会長]

最後に女性のお二人にお話しをお聞きしたいと思います。まず、女性団体連絡協議会の方、感想をお願いします。

[足立委員]

農業のことにに関してですが、伯州綿の栽培にしても本当に耕作地が少なく、渡小学校の児童が農業体験をしているようですが、それを渡だけでやっているということで、他の小学校でもできるのではないかと思います。綿の栽培の手間が何とかできたら、子どもだけでなく高齢者もできると思うし、畑を増やしていろんな商品に変えていくことができるのではないかと思います。

[会長]

最後に、とっとり暮らしアドバイザーの松本さんをお願いします。

[松本麻由子委員]

私は暮らしアドバイザーをしていて移住者の相談を受けています。私自身は大阪から移住してきたので、移住希望者からの立場でお話しさせていただくとすれば、これから子どもを産みたいとか、今、子どもが小さいという方で、女性にとって魅力的な職場が市内にはないです。ドラッグストアが多い印象がありますが、仕事が市内にあるかなと思ったときに、やっぱり米子や松江に行かなければいけないと思うと、移住に躊躇してしまうのかなと思います。

私自身も7年前にこっちに来て、自宅でネイルサロンを立ち上げました。その時もネイルする人がいるのかとすごく言われましたが、意外に米子や松江からたくさん来ていただいて、何とか今まで生計が立っています。多分、外から来るときに、それが可能な場所かわからないと思います。人口が少ないイメージとかあると思いますので、そういうところをアピールしていければいいと思います。都市部では、皆さん電車で行動しているので、車のイメージがないです。車で隣の町から来てくれるとか、うちは米子や松江からお客さんもすごく来てくださったので、行動範囲が広いことをアピールできればと思います。

私は身内が全くいなかったもので、ファミリーサポートを利用していました。そのすごいところが、私はひとり親ですけど、境港のファミリーサポートは、ひとり親の利用が半額です。大阪ではありませんでしたが、それを境港市に住んでいる人も知らないもので、しっかりアピールすると、こっちに移住しやすいと思います。

ネイルサロンのお客さんも境港市で働いている人が少なく、皆さん米子や松江に仕事に出ています。米子に引っ越す方も多いので、職場に魅力的なところが必要と思いました。

あと、移住相談で農業をしたい方が結構いました。でも、境港市はすぐに農業をできる場がない。そういった方は大山などを選ばれるので、選ばれるための何かがあればと思いました。

[会長]

ありがとうございます。今日は質問形式で皆様に現状の現状と課題、将来性についてお聞きしました。この総合戦略に書かれていることが、すべて成就できれば、境港市は魅力あるまちになっているはずですが、U・Iターンの人がある魅力はまだ感じてないということは、発信もさることながら、なかなか難しい問題もあって、すぐにできるということはないと思います。

しかしながら、一方では、これを目標に一步でも二歩でも近づけていく、そのための戦略会議であって欲しいし、委員の皆様の知恵や知見をフル活用してどんどん近づいていくということが必要ではないかと思えます。

## (2) 第2期境港市総合戦略について

では、事務局から「資料④第2期境港市総合戦略の改訂(案)」について説明をお願いします。

### [事務局]

事務局から説明させていただきたいと思えます。

この度の改訂案は、令和2年2月に策定した計画の時点修正で、4点の改訂をしています。

1点目は、令和2年の策定時なかった新型コロナウイルス感染症のことについて記載しています。

2点目は、観光の振興で、水木しげる先生が歩んだ100年を継承し、次の100年へ想いをつなげる文化観光創造拠点として水木しげる記念館の再整備、この点について記載をしています。

3点目は、社会基盤の整備で、高度衛生管理型市場の整備です。8月に2号上屋が供用開始されたことについての記載をしています。

最後4点目は、今年7月に開館しました市民交流センターについての記載を追加しています。以上です。

### [会長]

事務局案のとおり改訂を行いたいと思えますがいかがでしょうか。

賛成の方は、拍手をお願いします。

### (拍手多数)

### [会長]

ありがとうございました。

境港市民交流センターは、中四国防衛局の補助金によってできた防災施設です。近々、防災訓練をされるということで、境港市のミッションとして市民の命を守ることが大事ですので、ここが避難場所ということも私からお知らせしたいと思えます。

時間も12時になりました。長々とお話をしましたが、今回はこれで終わりたいと思えます。今日は皆様ご苦勞さまでした。

〔事務局〕

奥森会長をはじめ、委員の皆様にはたくさんの意見を交わしていただきまして、本当にありがとうございました。本日出ました意見を参考しながら、市政を推進し、目標達成に向かって頑張っていきたいと思えます。

以上をもちまして、令和4年度境港市総合戦略推進会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。